

神戸市介護サービス協会 だより

神戸市介護サービス協会 〒651-0086 神戸市中央区磯上通3-1-32 神戸市社会福祉協議会内
TEL 078 (271) 5326 FAX 078 (271) 5366
URL <http://www.kaigo-kobe.net>
E-mail kaigo@with-kobe.or.jp

◆ C O N T E N T S ◆

神戸市高齢者介護士認定証授与式……………	1	神戸市との意見交換会……………	6・7
H28年度第2回研修会……………	2	協会の活動状況……………	8
神戸市高齢者介護士認定者との意見交換会……………	3	市民福祉大学より……………	8
第3回研修会……………	3	個別加入のご案内……………	8
ジュニア認知症サポーター養成講座……………	4	編集後記……………	8
笑顔のゲンキ……………	5		

平成28年度 神戸市高齢者介護士認定証授与式を行いました

平成28年11月8日(火)に、神戸市医師会館において、今年度の神戸市高齢者介護士認定者33名への認定証授与式を行い、引き続き平成28年度第2回研修会を開催しました。

認定証授与式にあたり松井理事長は、「現在、介護現場では新たな人材の確保に苦勞をしている一方、今働いている職員が辞めないようにすることも重要であり、協会としても『働きやすい職場づくり』に力を入れている。神戸の介護保険事業がより良いものとなるよう皆様方にもご協力をお願いしたい。」とあいさつしました。

続いて、神戸市の三木保健福祉局長から、

「神戸市は、G7神戸保健大臣会合で採択された『神戸宣言』を受けて、認知症にやさしいまちづくりを推進しており、認知症の早期発見からケアまで個人の尊厳を守った認知症対策を進めていきたい。また、今後、各区に医療介護連携支援センターを設置し、多職種連携の促進に寄与したいと考える。認定者の方は日々の忙しい仕事のなか研修を受講され試験に合格されたので、今後の活躍を期待したい。施設・事業者の方には、勉強の大切さを理解いただいて、職員を研修にお送りいただき、神戸市民の福祉の支えになっていることを感謝申し上げます。」とごあいさつをいただきました。

その後、三木保健福祉局長より今年度の認定者一人一人に認定証が手渡されました。閉会にあたっては、神戸市高齢者介護士委員会の藤井委員長より「当認定制度は現場重視の充実した内容となっているので、関係者の皆様には引き続き、参加勧奨及びご協力をお願いしたい。コミュニケーションのとりやすい職場は働きやすく、人材確保の苦勞も少ない。働きやすい職場を目指し、各現場でも取り組んでいただきたい。」とあいさつがありました。

引き続き開催された第2回研修会では、兵庫県対人援助研究所主宰 稲松真人氏より「ズバリ！職場の雰囲気はいいですか？～介護現場でのコミュニケーション能力の向上～」と題して講演をいただきました。

講演の要約は次ページです(文責:事務局)



講演

『ズバリ!職場の雰囲気はいいですか?』

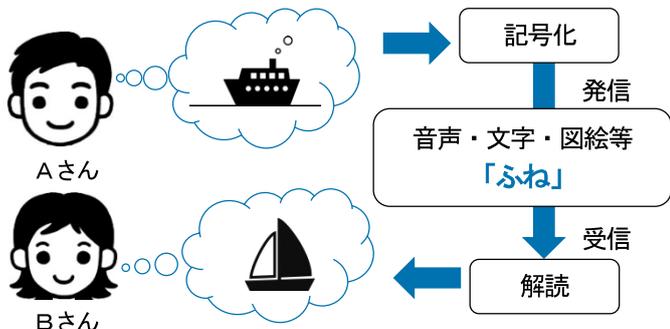
～介護現場でのコミュニケーション能力の向上～

講師：兵庫県対人援助研究所 主宰 稲松 真人 氏

コミュニケーションとは?

コミュニケーション=伝達

Aさんが思ったことをBさんに伝達するとしたら・・・



Aさんの意図とBさんの意図が一致しない!

→どこですれたのか?

伝達の仕方が曖昧だと、それぞれの思い、知的レベル、関心や価値観、文化背景等によりゆがみが生じる。

受け手側がどう理解したかが重要!

- 一方向のコミュニケーション (マスコミ等)
 - ・ 相手がどう受け取ったか関知しない、できない
 - ・ 短時間に多くの人に一定の情報を伝えるのには優れている
- 双方向のコミュニケーション
 - ・ 相手の発言の意味を確認する → 言葉のキャッチボール
 - 情報の共有化が促進される
 - ・ 情報が行ったり来たりで、時間がかかる。

『職場の申し送りはどうですか?』

→時間をかけられず、申し送りノートやメモを使い、他の職員がどう理解したか確認できていないのでは?

『利用者の望むこと、困りごとへの対応はどうですか?』

→受信者であるこちら側から理解の確認をする。
「こう理解したのですが、それで合っていますか?」等

コミュニケーションは、不都合が生じる可能性があると意識する。

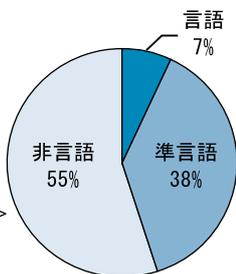
相手が勘違いしているのでは?と感じても、確認するのは失礼かと思って放置しておく、小さなすれが大きなすれになる可能性がある。

- 不都合に気づいたら、不都合を正す勇気をもつ。
- 不都合の正しかたは工夫をする。(感情的にならない)

コミュニケーションのレベル

言語レベル=言葉そのもの
準言語レベル=話し方、話すスピード
非言語レベル=見た目、表情、仕草

各レベルの情報伝達力
(例:メラビアンの法則)



非言語コミュニケーションは色々な情報を出している

- 言語と非言語が矛盾している場合=二重表現
例)「怒ってない」と言っている、顔は明らかに不機嫌
二重表現が起こったときは、非言語の方が真実
 - ・ 不安げな表情等を見逃さない
 - ・ 伝える立場のときも、非言語を意識する。

私たちの仕事の目標は何?

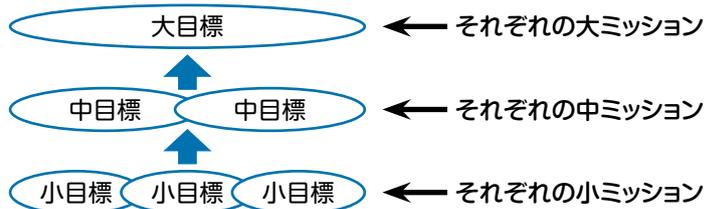
- 医療援助モデル
 - 患者を対象に病気・けがの治療をして、健康にする。
- 生活援助(福祉)モデル
 - 利用者の生活課題を解決し、自立、自己決定を支援して、その人らしい暮らしに近づける。

自己決定は福祉の原則であり、権利でもある。

毎日朝起きてから寝るまで、自己決定の繰り返し。自己決定を積み重ねてその人らしさができる。

その目標に向かって何をするか?

ポジションにより、それぞれ使命(ミッション)は違う



強いチームとは?

- ①共通の目標をもっている。
 - ②情報を共有できる。
 - ③専門性を発揮できる。発揮できる環境がある。
 - ④お互いを信頼している。
- ※利用者の目標達成には、本人の力も必要。
→利用者もチームの一員として考える。

専門性を発揮し、それぞれの業務は分かれているが、情報を共有し、横断的に役割を補完できるチームはより強くなる!

野球、サッカーでも強いチームは、状況に応じてお互いのポジションをカバーできる。

強いチームには、サポーターも必要(ボランティア)

良い職場環境にするために

- みんな知っている **報・連・相** の元々の意味は、「部下は上司に、報告・連絡・相談をしなさい!」ではなく、上司が報・連・相を **きちんと聞くシステム** (風通しのよい環境) を作るということ。

明日から笑顔で挨拶をしてください

利用者さんに、同僚に、先輩に、後輩に、施設長に・・・
部下より先に、上司から挨拶をする!
挨拶は「あなたがそこにいることをわかっている」という、最低限のコミュニケーション。

施設の雰囲気が明るいと利用者さんも明るくなる!



神戸市高齢者介護士認定者との意見交換会

神戸市高齢者介護士認定証授与式の前に、今年度の認定者及び所属長と神戸市・協会関係者の意見交換会が行われました。受講・受験の感想、制度について等いただいた意見の一部を紹介します。

- ◆ 4年目の自分が、経験の長い人達についていけているかという不安もあり、介護福祉士の資格は取得していたが、もう一度振り返って勉強しようと思い参加した。介護福祉士の勉強にはなかった新しい学びもあり、よい機会だったと思う。この講習では認知症対応や接遇、文書の書き方等広い範囲を、また認知症や疾患については深く学ぶことができた。(認定者)
- ◆ 基礎的なことを勉強せずにこの業界に入り、現場で指導されるまま業務に取り組んでいたが、職員は皆一生懸命やっているのに利用者一人一人と接する時間を取るにはかなり頑張らないといけない現実があり、これでいいのかという疑問があった。社会のニーズと現場のずれを感じ、一度体系づけた勉強をしてみたいと思っていたのでよい機会となった。(認定者)
- ◆ 介護福祉士の試験は〇×式だったが、この試験はノートに書き写したり、覚える範囲も多く、難しかった。他の事業者の方との出会いもあり、他に受けている研修を教えてもらい、自分も受けることになった。職場でのコミュニケーションを難しく感じていたが、講習を受けて、今後、後輩指導に活かしていきたい。(認定者)
- ◆ 普段、文章を作成したり、喋るのが苦手で、作文の試験は何度も書き直した。試験に合格して、職場でのコミュニケーションの取り方、文書での相手への伝え方がましになったように思う。(認定者)
- ◆ この講習と介護福祉士実務者研修両方を受けていて、休みもなく大変だった。実務者研修でわからない所の説明をこの講習で聞けたり、その逆もあって、両方が復習になりよかった。何冊かノートを作成し、今までこんなに勉強したことはなく、よい経験になった。(認定者)
- ◆ 法人内で講習等を行っているので、今まで外部講習は受けなかったが、自分がこの講習を受けて上司に報告したところ、今後は外部の講習にも目を向けるようになった。看取りについて若いスタッフから質問を受けることがあり、何度か看取りも経験しているが、死に至るといえるのはとても大変なことなので、今後の講習に含めていただきたい。(認定者)
- ◆ 今回初めて職員が受講し、よい制度だと思った。本だけで勉強するのではなく、3年間の実践を経て問題意識を持って勉強するということに意味があるのではないかと。これで終わりとせず、定期的に勉強する機会を持ってもらうと、どんどんよい介護士になると思う。(所属長)
- ◆ 記述式の問題を採用している効果もあってか、この試験の合格者はカンファレンスなどの場において、きちんと発言できるようになったと感じている。ケース記録の「特に変化なし」も最初にきちんと情報提示した上での「特変なし」と、何もなかったままの「特変なし」では違う。(藤井委員長)

第3回全体研修会のご案内

高齢者を地域で支えていくための神戸でのこれからの取り組み ～平成29年度総合事業や認知症支援の最新動向～

神戸市では、平成29年度から介護予防・日常生活支援総合事業が始まります。また、昨年のG7神戸保健大臣会合をうけて、「認知症の人にやさしいまちづくり」が神戸市として力を入れて進めていこうとされています。

そこで、介護保険事業者や各関係団体などにおいて、今後、どのように事業を展開していけばいいのか、また、地域でどのような仕組みづくりを構築していけばいいのかを考え、平成29年度にむけて神戸市の最新動向を学び、来年度以降の事業展開に活かしていく機会とします。

日 時：平成29年3月9日(木) 14:30～16:00

内 容：「認知症の人を地域で支えていくために～神戸でのしくみづくりにむけて～」
「神戸市における総合事業に関する動向」

神戸市介護保険課より

会 場：こうべ市民福祉交流センター 201教室

お申込み：案内チラシ裏面または協会ホームページより申込用紙をダウンロードし、FAXにてお申込みください。

参加費
無料

ジュニア認知症サポーター養成講座

平成28年12月9日(金)に兵庫区の湊川中学校で開催されたジュニア認知症サポーター養成講座を見学してきました。認知症について正しく理解するための市民向け講座(認知症サポーター養成講座)は多く開催されていますが、小中学生が地域の高齢者の支えになれるようにと兵庫区社会福祉協議会と兵庫区の認知症サポーター養成講座講師(キャラバンメイト)で用意したオリジナルプログラムを使用した講座の第1弾が開催されました。参加した湊川中学校2年生95名の生徒たちは熱心に講義を聴き、積極的にグループワークに取り組んでいました。(講座の内容は以下のとおりです)

1. 自己資源バスケット1回目

認知症の人は、何ができて、何ができないのか、みんなで考えてみよう! 「服を着替える」「買い物をする」「ひとりで電車やバスに乗る」「自分で名前を書く」など全部で15項目のカードを、グループで話し合いながら、「**できると思う**」か「**できないと思う**」のバスケットに振り分けました。各グループのシートを覗くと、多くのカードが「**できないと思う**」の方に振り分けられていました。



オリジナル動画



2. 認知症の基礎知識

「認知症の基礎知識～認知症ってどんな病気?～」の講義を聴きました。



3. DVD鑑賞

認知症家族の会のご協力により兵庫区内で撮影した、一般の高齢者と認知症の高齢者の行動を理解するための3編のオリジナル動画

- ①スーパーのレジで小銭を使って支払えない
 - ②行きたい方面へ行くバスの停留所がわからない
 - ③自分が今いる場所がわからない
- を鑑賞しました。



4. グループワーク・発表

DVDの状況を想定し、自分たちにどんなことができるかをグループで話し合い、発表しました。

- ◆スーパーの店員と一緒に小銭を数えてあげる。
- ◆バス停がわからなくて迷っている人がいたら、声をかけて教えてあげる。できれば、バス停まで一緒に行く。
- ◆バスの行先表示をわかりやすくするよう役所へお願いする。
- ◆自分達で対応できないような場合は、近くのコンビニなどの大人に助けを求める。等の意見が出ました。



5. DVD鑑賞(対応例)

グループワーク前に見た3編の動画の対応例の動画を鑑賞しました。



6. 自己資源バスケット2回目・発表

1回目の自己資源バスケットで「**できないと思う**」に振り分けられていたカードを、振り分けし直しました。

「**できないと思う**」から「**できると思う**」に変わった項目とその理由の発表がありました。

- ◆「電話をかける」「ひとりで電車やバスに乗る」等は周りの助けがあればできると思う。
- ◆「薬を飲む」は周りの人が助けたり、カレンダーを活用すればできると思う。
- ◆「困った時に助けを求める」は、困っていそうなお年寄りを見かけたら「何かお困りですか?」とこちらから声をかけることによって、助けを求めやすくなる。

最後に、動画にご出演いただいた認知症家族の会「平野すみれ会」から、「認知症になっても、周りの手助けがあればできることもたくさんある。中学生の皆さんにもお年寄りや認知症のことを知ってもらって、やさしさと思いやりを持って接してもらえることを願っています。」というメッセージ動画が上映されました。

生徒が皆まじめに話を聴き、真剣に話し合っていたことに驚き、頼もしく思いました。

認知症の方と接したことがないと回答した生徒は7割だったと聞きましたが、祖父母など身近に認知症の方がいる生徒は具体的な話をしていたようですし、接したことがない生徒は「認知症になったら何もわからへん!」等、漠然としたイメージでとらえていたようです。このような活動を通じて認知症にやさしいまちづくりが推進され、介護への理解が進んで、将来、介護の仕事を目指す生徒が増えてくれればうれしい限りです。

第1回

笑顔のゲンキ (がんばる介護職！)

神戸市高齢者介護士認定証授与式での松井理事長のあいさつにもあったとおり、介護現場では新たな人材の確保と合わせて、現職の職員が辞めないようにすることも重要です。介護人材の定着に向けた取り組みにおいて、退職者の離職理由を調査することも必要ですが、介護の仕事を続けている人に「続けている理由」を聞く方が人材確保・定着のヒントになるのではないかとのご意見をいただいたこともあります。

そこで、現職の介護職員を訪ね、介護の仕事を続けている理由をお聞きするコーナーの連載をスタートします。

記念すべき第1回は、特別養護老人ホーム東部高齢者介護支援センターの田中弓絵さんを訪ねて、お話を伺いました。

介護職になって3年目とのことですが、介護の仕事に就くきっかけは何だったのですか？

介護の仕事に就く前は正社員で機械設計の仕事をしていたのですが、骨折、入院し、認知症の症状が出始めた祖母を介護する母を見て、自分も何か手伝えることはないかと思い、介護の勉強を始めました。祖母は亡くなったのですが、せっかく勉強したので、介護の仕事に就いてみようかと転職しました。

実際、この仕事に就いてみてどうでしたか？

学校で実習は経験していましたが、思った以上に身体を使う仕事で体力がついていかなかったです。でも、だんだんと身体の使い方もわかってきて、体力もつきました。

また、覚えることが多くて、自分自身一杯一杯になってしまったこともありました。

設計のお仕事とは職場の雰囲気も全然違いますよね？

前の職場は皆が黙々と自分の仕事をこなしている状況だったし、自分は口下手で人とのかわりが苦手なタイプだと思っていました。でも、この仕事に就いて、利用者さんや職場の人とコミュニケーションを取りながら仕事をするのがすごく楽しいと感じます。仕事ではありますが、利用者さんと会話しながら働くことが自分自身の息抜きにもなっています。



介護の仕事の魅力というか、この仕事を続けようと思う原動力は何ですか？

シンプルに利用者さんの「ありがとう」の言葉が一番うれしいです。

ある利用者さんが他の利用者さんに「この人はこんなことしてくれたのよ！」と私のことをほめていただいたときは、うれしかったです。利用者さんは職員のことをよく見ていて、この人はこのような対応をする人だということもよくわかっておられます。

入居当初は落ち着かず、大声を出したり、暴れたりしていた利用者さんもおられますが、何か月か経って、施設の生活に慣れてくると落ち着かれることも多いです。

介護人材の不足についてどう思われますか？

ニュースやマスコミなどで取り上げられる内容によって悪いイメージがつき過ぎていると思います。実際、この仕事をしていてとても楽しいです。勤務はシフト制で夜勤もありますが、自分の予定に合わせてシフトの希望も出せますし、有休も取れて残業も少ないので、前職よりも自分自身の時間を作りやすいと感じています。

現在、施設にEPA介護福祉士候補生が居ますがとても優秀で、私達にもいい刺激になっています。指導する時もわかりやすく教えることを心がけるなど、教えることが自分自身の勉強にもなります。

資格取得がキャリアアップにつながるので、今年、介護福祉士の試験にもチャレンジしましたが、神戸市高齢者介護士認定試験の勉強も役に立ちました。

田中さんは、今年度、神戸市高齢者介護士認定試験に合格され認定を受けられた方で、少しシャイな感じのはにかんだ笑顔と、真摯なまなざしが印象的でした。

介護保険制度に関する神戸市との意見交換会を開催しました

平成28年11月10日(木)、三宮コンベンションセンターにおいて神戸市との意見交換会を開催しました。神戸市からは、保健福祉局介護保険課・介護指導課の課長・係長、当協会からは運営委員・部会員が出席し、短い時間ではありましたが、活発な意見交換が行われました。神戸市への要望及び神戸市との意見交換の内容は以下の通りです。

1 介護人材の確保・育成について

①市民に対し、介護に対する理解を深め、介護職のやりがいや魅力について知ってもらうため、マスメディアを活用する等介護業界のイメージアップをはかり、介護人材確保につながる取り組みをお願いします。

神戸市： 介護人材確保については深刻な状況であり、神戸市の役割として主に研修事業を中心に人材の定着を図るようにしている。介護業界のイメージアップについては、兵庫県と兵庫県社会福祉協議会で学生に対する福祉職場の体験学習事業等の実施をしている。神戸市としても県社協と連携しながら事業を推進していきたい。

学校教育においては、小学校では「高齢者の福祉体験」という授業があり、中学校ではトライやるウィーク等で福祉施設と関わる取り組みを行っている。高校での取り組みについて、介護保険課から案内を出すなど検討できる。

協会： 11月11日の介護の日を中心に「考えよう介護週間」等として、協会、行政が一体になって介護の啓発キャンペーンの企画・実施ができればよい。

神戸市： たしかに11月11日の介護の日は市民に浸透していないと感じている。認知症の人にやさしいまちづくりと合わせて、草の根的に市民にPRして、介護人材確保に結び付けられればよい。

協会： 特に、確保が困難な介護職について、人材確保の見通しと対策をお願いします。

神戸市： 人材確保については、県と共同で潜在的有資格者を対象に「介護職再就職支援講習」を実施した。ホームヘルパーの人材確保については、来年度始まる総合事業では要件を緩和し、一定の研修受講者は生活援助サービスに従事可能としており、すそ野を幅広くしていく予定である。

②サービスの質の向上、職員のキャリアアップのためにも職員が研修に参加しやすい仕組みづくりをお願いします。

神戸市： 多くの研修があり、参加する時間がないという声を聞いているが、昨年度から県で、社会福祉施設・事業所の職員が介護福祉士試験の実務者研修と初任者研修を受講する際に代替職員の経費を補助するという事業を行っている。他の研修も対象にできないかということを県に対して要望していきたい。

③神戸市高齢者介護士認定制度について、認定介護士のいる事業所への補助金等の仕組みづくりをお願いします。

神戸市： 大変有意義な施策だと思っているが、事業所に対する補助金交付は難しい。基本的には、各事業所において処遇改善を図っていただきたい。当制度の有効性については、今後も色々な場でPRしていきたい。

2 地域包括ケアの推進について

①地域ケア会議のシステム化 多種職の専門職が参加しやすい仕組み作りをお願いします。

神戸市： 地域ケア会議の定例会議については各地域包括支援センターで年間計画を立てて、区と共に関係者の都合を調整して周知するようにしている。今後できるだけ関係者に参加いただけるよう早めの日程調整、通知案内をしていきたい。

②地域ケア会議の日程・参加者調整、運営、会議録の作成など地域包括支援センターの負担がかなり多いため、行政のバックアップ体制の構築をお願いします。

神戸市： 地域包括支援センターの負担が大きい事はよくわかっているので、会議の企画や参加者の調整、当日の運営についてもできるだけ区で協力、助言をしている。市ではセンターの職員向けに研修を実施して、職員のスキルアップ面での支援を行っている。今後、総合事業も始まると、センターはますます忙しくなると思うので、区・市ともにできるだけ支援していきたい。

③各地域で検討された課題について、他の地域でも活かされるよう情報共有の仕組みづくりをお願いします。

神戸市： センター職員の区の代表者会で情報交換を行っており、全市発表会でセンターの優れた取り組みを発表していただいている。他の圏域の取り組みの情報を共有できる仕組み作りを引き続きやっていきたい。

④地域ケア会議や在宅医療・介護連携支援センターが主催する会議等、同じような関係者が集まる会議が多く、目的・内容とも類似しているため、それぞれの明確な役割を示し、調整いただきますようお願いいたします。

神戸市： 地域ケア会議は日常生活圏域レベルで地域住民も参加して、個別課題の事例検討や情報共有を行っている。在宅医療・介護連携支援センターで開催する多職種連携会議は専門職による在宅医療・介護連携の課題への対応を検討するという位置づけである。2つは一定の役割分担があるが、明確に分けるのは難しい。今後、在宅介護・連携支援センターの役割、相談の流れ、連絡先等を記載したリーフレットを発行する予定で、関係機関に配布し、周知を図っていきたい。

⑤地域ケア会議等で個人情報保護のため実名を取り上げることができず、具体的な連携につながりにくい状況があるので、個人情報の取り扱いについて改善をお願いします。

神戸市： 個人情報保護法、条例等により、本人・家族に同意を得たうえで地域ケア会議に取り上げることが原則である。本人・家族の同意が取れない場合は、類似事例や架空事例で検討することもできる。また、専門職だけで個別ケースの検討会として開催することもできる。いずれにせよ、本人・家族の地域ケア会議に対する理解や信頼が前提になっているので、個人情報の同意を円滑に進めるために神戸市としても地域ケア会議の趣旨を周知するように努めていきたい。

協会：地域ケア会議での個人情報の取り扱いについて同意が取れないのは、地域包括支援センターの役割や、地域ケア会議の重要性が十分浸透していないことも一因だと思う。地域包括支援センターの役割について一般市民への周知も重要である。

神戸市：地域包括支援センターの一般市民への周知については、70代以上の高齢者の認知度は高いが、40代、30代になると下がるので、高齢者の子供世代への認知度アップを図っていきたい。

3 介護予防・日常生活支援総合事業について

①介護予防・日常生活支援総合事業が始まりますが、サービスの担い手の確保・育成、市民への広報について混乱がないようお願いします。

神戸市：新たに実施する訪問型Aのサービスに従事される担い手については、県と連携してサービスに必要な研修を実施していく予定である。神戸市でも12時間程度研修を行う予定である。

住民主体による訪問型Bのサービスについては、利用者が混乱しないよう、一定の活動実績があり、安定してサービスを提供できる体制が必要と考える。詳細を詰めて担い手を募集し、参入事業者の確保に努めたい。

広報については、まずは、現在介護保険サービスを利用している方に総合事業について説明し、不安を取り除く必要がある。そのために地域包括支援センター職員やケアマネジャー等が、対面で利用者に説明するためのリーフレットを作成した。引き続きわかりやすい資料を作っていきたいと考えている。

協会：総合事業だけでなく、介護保険に対する市民の理解は十分ではない。一般介護予防事業は、高齢者が担い手となることで、自分自身の介護予防になるという仕組みだが、本人たちはそれを必要と感じていない。

神戸市：一般介護予防事業の方向性として「インフォーマル型」「居場所づくり型」「地域拠点型」を設定し、元気な高齢者にも担い手になっていただき実施していきたい。幅広くPRし、担い手を募集していきたい。現在活動中のインフォーマル型の団体にも参画いただき、魅力のある取り組みにしていきたい。

4 地域包括支援センター、介護保険事業所の業務の改善について

①地域包括支援センターの委託料はほとんど増えないまま、業務が増え続け、介護予防・日常生活支援総合事業の開始に伴い、さらに業務が増えることが予想されます。地域包括支援センターが適切に業務遂行できるように、神戸市とセンターが協力して運営していく体制づくりと人員配置及び委託費の見直しをお願いします。

神戸市：センターへの区及び市の協力体制は当然必要で、現在も助言を行っている。市と区の意見交換の場として、職種別の代表者会、区の代表者会を開催している。センター説明会で情報提供もしている。その他、総合事業、災害時対応についてのマニュアルを作成しているが、ワーキングにはセンター職員にも参加いただき意見をいただいている。総合事業開始に伴い、センターの役割がますます大きくなるので、次年度の体制については予算要求しているところである。市としてできるだけセンターを支援していきたい。

紙面の都合上、全て掲載はできませんが、下記の事項についても神戸市に対し要望し、意見交換を行いました。

- ◆入居者・利用者の重度化、介護人材不足のなか、介護職の負担軽減として、ノーリフトケアの考え方等事業者の意識改革に対する啓発や支援の取り組みをお願いします。
- ◆介護施設での看取りが増えている中、施設によって受けられる医療が違う等の課題がある。市民に分かり易い「介護施設の種類と内容」のパンフレットの作成及び、専門職向けに、各施設で対応可能な医療処置についてリストアップし、助言いただくようお願いします。
- ◆ケアマネジャーが利用者宅を訪問し、負担割合証の確認をする、ショートステイなどの食費・居住費にかかる利用者負担の軽減制度を利用するために利用者の通帳のコピー等を取り扱うなどの業務については、多大な時間・労力を取られるうえ、利用者・家族から不信感を持たれるなどの状況も発生しているため、改善をお願いします。
- ◆平成29年4月より予防プランの見直し期間が1年に延長されますが、要介護者についても心身の状況に変化がない場合は、ケアプラン見直しを認定期間と同じ期間または、1年に延長していただきますようお願いいたします。
- ◆サービス提供に関する各種記録の保存期間について、神戸市条例により5年間とされているものを、介護保険法で規定している2年間にさせていただきますようお願いいたします。
- ◆厚生労働省に対し、基本報酬部分での介護報酬の増額及び、介護職に限定された介護職員処遇改善加算ではなく、全体としての処遇改善につながる仕組みについての要望をお願いします。
- ◆神戸市介護サービス協会との連携強化について、本会の各会議に神戸市の関係所管部署から参加いただくなど議論の機会を増やしていただくようお願いいたします。

協会の活動状況

◆ 11月から1月までの動き

平成28年	
11月	8日 平成28年度神戸市高齢者介護士認定証授与式 平成28年度第2回全体研修会 (参加者86名)
	10日 平成28年度第4回居宅介護支援サービス部会 平成28年度神戸市との意見交換会
	17日 介護現場で知っておきたい医学知識研修会 part 1 3日目(参加者91名)
12月	1日 平成28年度第5回運営委員会
	8日 介護現場で知っておきたい医学知識研修会 part 2 1日目(参加者73名)
	12日 在宅介護における感染予防研修会 (参加者22名)

平成29年	
1月	12日 平成28年度第5回居宅介護支援サービス部会 平成28年度第4回施設サービス部会
	16日 平成28年度第4回在宅サービス部会
	19日 介護現場で知っておきたい医学知識研修会 part 2 2日目(参加者71名)

◆ 今後の予定(期日確定分のみ)

平成29年	
1月	26日 特別セミナー
2月	2日 平成28年度第6回運営委員会
	10日 平成28年度第3回高齢者介護士委員会
	23日 介護現場で知っておきたい医学知識研修会 part 2 3日目

市民福祉大学より

老人福祉施設中堅職員研修

日 時：平成29年2月20日(月) 9:30~16:30
会 場：こうべ市民福祉交流センター
テ ー マ：「心を元気にする回想法」
 ・回想法の技法と効果
 ・演習(コミュニケーション)
 ・認知症高齢者への関わり方
 ・施設と地域での実践例
 ・演習(グループワーク)
 ・施設で導入した実践例(ボランティアを活用して)
 ・地域包括ケアシステムの中で施設が担える役割

講 師：津田 理恵子氏
 (神戸女子大学健康福祉学部社会福祉学科 教授)

受講料：2,000円(当日、受付にてお支払いください)
定 員：30名 ※応募者多数の場合は抽選
締 切：平成29年2月6日(月)

職場内研修(OJT研修)担当者研修

※必ずOJT担当職員、管理職2名1組でお申込ください

1 日 目：平成29年2月23日(木) 9:30~16:30
2 日 目：平成29年3月 2日(木) 9:30~17:00
会 場：こうべ市民福祉交流センター
内 容：人を育て、職場を変えるためのOJT

1 日 目	<ul style="list-style-type: none"> ・OJT の基本的な考え方 ・OJT の進め方【基本編】 ・人材育成の取り組みについての情報交換 受講対象：管理職と OJT 担当者 2 名 1 組
2 日 目	<ul style="list-style-type: none"> ・OJT の進め方【演習】 ・OJT に必要なコミュニケーションスキル ・振り返り 受講対象：OJT 担当者

講 師：津田 耕一氏(関西福祉科学大学 社会福祉学科 教授)
受講料：1施設(2名1組)あたり 6,000円
 (講座初日、受付にてお支払いください)
定 員：2名1組で40組 ※定員を超過した場合は抽選
締 切：平成29年2月9日(木)

申込方法：所定の申込用紙に必要事項をご記入の上郵送またはFAXにてお申し込みください。

申込先・お問合せ先

社会福祉法人神戸市社会福祉協議会 市民福祉大学

〒651-0086 神戸市中央区磯上通3丁目1-32 こうべ市民福祉交流センター
 TEL (078) 271-5300・FAX (078) 271-5365



個別加入のご案内

協会では、下記の団体加入会員(団体一括加入)の7団体に加入されていない法人・事業所等で、神戸市内で活動を行う介護サービス事業者を運営する法人・事業者や介護サービス関連事業を行う団体を対象に、個別加入の受付を行っています。

詳しくは、協会事務局までお問い合わせ、または協会ホームページをご覧ください。

- 団体加入会員(団体一括加入)
 - 一般社団法人 神戸市老人福祉施設連盟
 - 神戸介護老人保健施設協会
 - 公益社団法人 神戸市民間病院協会
 - 神戸市シルバーサービス事業者連絡会
 - 一般社団法人 神戸市医師会
 - 公益社団法人 神戸市歯科医師会
 - 一般社団法人 神戸市薬剤師会
 - 上記の7団体に所属する会員

編集後記

新連載の「笑顔のゲンキ」はいかがでしたか？施設を見学させていただきましたが、職員さん達の笑顔が輝いていました。稲松先生の「施設の雰囲気明るい利用者さんも明るくなる！」の言葉通り、利用者さんも穏やかな表情で過ごされていました。

実際の現場は明るく、介護職もいきいきと働かれています。介護の仕事希望する人は少なく、介護人材不足は深刻です。今や、スマホが状況に応じ、気を使って話しかけてくれる時代。近い将来、24時間同じ笑顔を貼りつけた顔のAIロボットが介護をしてくれるようになるのかも知れません。(か)